

ご挨拶

岐阜県木材青壮年団体連合会会長 高瀬 秀 樹



初めまして。今年度、岐阜県木材青壮年団体連合会会長を務めております、高瀬です。例年、岐阜県木青連（略称）には、県木推協より、県木工工作

コンクールへのご支援を頂きまして誠にありがとうございます。また、今年6月に開催されました、“日本木材青壮年団体連合会 第64回全国会員愛知大会”には、岐阜県木連を始め、県内、各企業から多くのご協賛を頂き、ご来賓、諸先輩方には、ご臨席を賜りまして厚く御礼申し上げます。皆様のお力添えを頂きまして、無事、盛会となりました事をご報告致します。

さて、昨今の木材業界は、戦後の拡大造林政策により植樹された木々が、半世紀以上を経て収穫期を迎える中、豊富な木材資源の活用へ機運が高まりつつあります。アジアを中心とした木材輸出も急増し、県内でも、県産材を使用した、公共施設、商業施設などの木造化、木質内装化や、ぎふの木で家づくりの支援また、東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材提供など、今、まさに“ウッドファースト社会”の実現へ、あらゆる取り組みが行われています。県木連事業となる、“ぎふ県木連サプライチェーンマネジメント推進フォーラム”では、県に多くある小規模の製材工場が、まとまって大規模な物件に対応できる体制を具現化できるなど、有効な場として期待されております。

そうした中、私たち岐阜県木青連も、多様な角度から木材を普及する活動を行っております。当団体は、林業・製材加工・集成材・流通・建設・木工など、木材業界の川上から川下まで、あらゆる業種の会員で構成された、全国木材業界の若手を中心とした組織である、日本木青連（略称）の単位団体です。

日本木青連では、各委員会活動として、子供たちと木材をつなげる「全国児童・生徒 木工工作コンクール」、木の良さを活かした建築物、木工品を対象にした「木材活用コンクール」の

開催や、PRカレンダー作成などの広報活動。林野庁、国土交通省をはじめとする行政や、異業種との情報交換会などの活動を行っております。今年度は、“SDGs 持続可能な開発目標”の委員会を発足し、先ず、理念を理解し、森林・木材を通じて出来る事に取り組んでいます。

岐阜県木青連では、前述の委員会への参加を中心に活動し、特に、木工工作コンクールは、県の伝統ある行事として定着し、代表作品が全国でも毎年、入賞されています。その他にも、県内の単位会団（岐阜・西南濃・中濃・東濃・益田・高山あすなろ）の6地域で、県産材流通課より、ご支援を頂きまして、木工教室など地域に根付いた木育活動を継続しています。

また、今年度は、県産材流通課との情報交換会を開き、県の森林・林業政策と、製材、木造建築物などの支援制度をテーマに、多いに論議を交わしました。県の方々からは、大変に評価を頂きまして、今後も継続することになりました。最新の情報を収集し、現場の声を発信できる機会は、木青連会員企業へ、多くの利点をもたらす取り組みになると感じています。更に、11月に開催される、“ぎふの木フェスタ2019”に出展を予定し、歴代の木工工作コンクール入賞作品の展示をはじめ、木工体験などを計画中です。県最大の木材イベントに参加することで、地域の活性化に寄与してまいります。

このような活動を続ける岐阜県木青連ですが、現在の会員数は、減少傾向にあり42名となりました。昭和50年代には300名以上いた会員数には驚きますが、一人でも多くの方に入会して頂いて、誰もが様々な経験を通し、木材業界と共に、自身も向上できる団体を目指して行きます。そして、県木連の担い手・後継者対策にも当団体が携わり、より望ましい状況に進むよう行動し、後継者育成も含めて「岐阜県木青連から岐阜県木連へ」という基本的な流れが構築されるよう、努めてまいります。

最後になりますが、岐阜県の森林・林業・木材産業の発展と、貴連合会の益々の、ご活躍を祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。